

# 2023年3月期 第1四半期連結業績概要 2023年3月期 通期見通しについて

専務執行役員  
山西 哲司

中国ロックダウンや地政学的リスク増大により、エレクトロニクス需要に減速影響も、顧客・アプリケーション基盤の拡大により売上、営業利益は堅調に推移。

- 売上高は前年同期比21.5%増、営業利益は前年同期比42.4%増
- 円安が急速に進行し業績に影響

▫自動車市場では、サプライチェーン上の制約が継続し、生産台数は前期を下回る水準に留まるも、xEV比率の増大により部品需要は堅調に推移。受動部品、センサの販売が拡大。

▫ICT市場では、コロナ禍で好調だったPC、タブレットの需要が減少に転じ、スマートフォンの需要回復も見られず部品需要は低調に推移。また、データセンター向けのサーバー需要は堅調もPC需要の減速によりHDD出荷台数は前年割れの水準に。

▫地政学的リスクの高まりによるエネルギーの供給不安や価格高騰から、家庭用蓄電システムの需要が拡大。中型二次電池の販売が増加。

# 2023年3月期 第1四半期連結業績概要

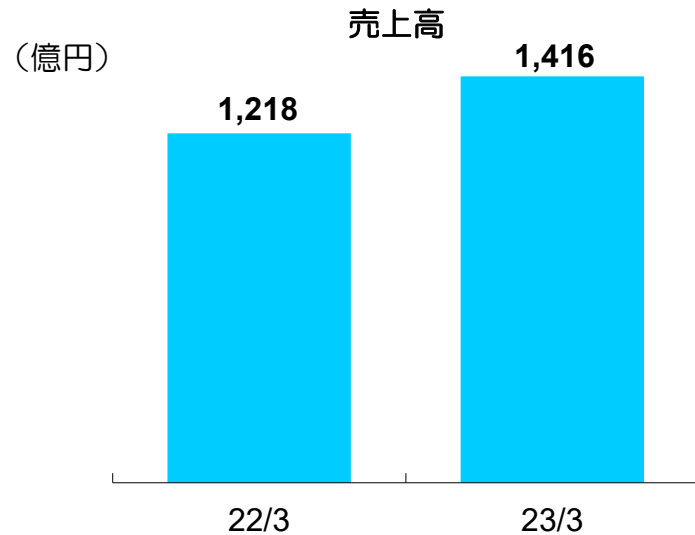
Attracting Tomorrow



(億円)	2022年3月期 第1四半期実績	2023年3月期 第1四半期実績	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	4,201	5,105	904	21.5
営業利益	313	446	133	42.4
営業利益率	7.5%	8.7%	+1.2 pt	-
税引前利益	324	439	114	35.3
当期利益	270	314	45	16.5
1株当たり利益 (円)	71.12	82.87	-	-
為替	対ドルレート (円)	109.50	129.36	18.1%の円安
	対ユーロレート (円)	131.90	137.95	4.6%の円安
為替変動による 影響金額	売上高：約637億円の増収 営業利益：約126億円の増益			

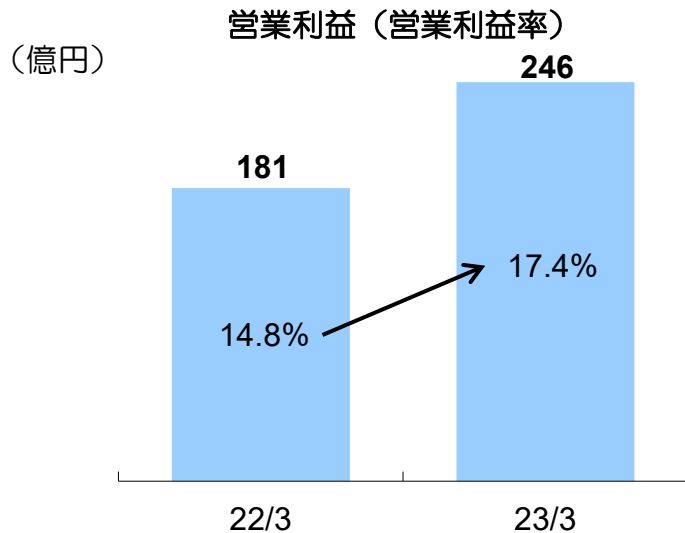
(注) 2022年3月期の有価証券報告書における連結財務諸表から、従来の米国会計基準に替えて国際財務報告基準 (IFRS) を適用しています。当資料に記載の前連結会計年度の財務数値についても、IFRSに準拠して表示しております。

# 第1四半期各事業の状況（受動部品事業）

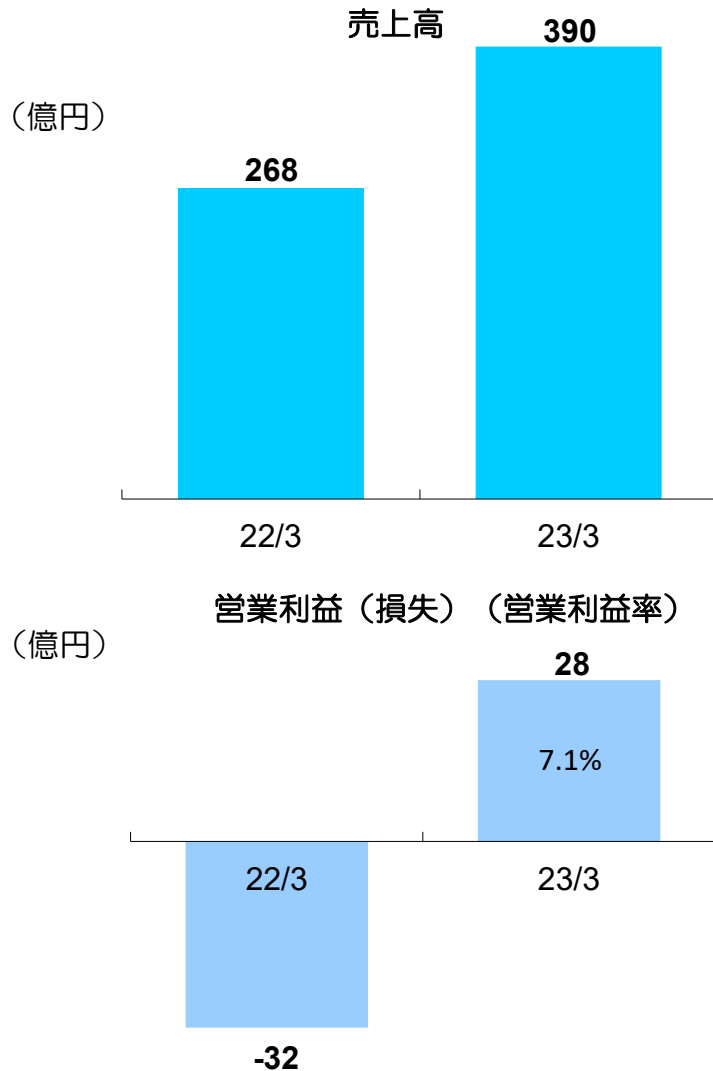


売上高 1,416億円（前年同期比16.3%増）  
営業利益 246億円（前年同期比36.1%増）

- セラミックコンデンサ
  - 前年同期比で増収増益。
  - 自動車市場向け、代理店向けの販売が増加。
- アルミ・フィルムコンデンサ
  - 前年同期比で増収増益。
  - 産業機器市場及び自動車市場向けの販売が増加。
- インダクティブデバイス
  - 前年同期比で増収増益。
  - 自動車市場及び産業機器市場向けの販売が増加。
- 高周波部品
  - 前年同期比で増収減益。
  - 自動車市場向けの販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
  - 前年同期比で増収増益。
  - 産業機器市場向けの販売が増加。



# 第1四半期各事業の状況（センサ応用製品事業）

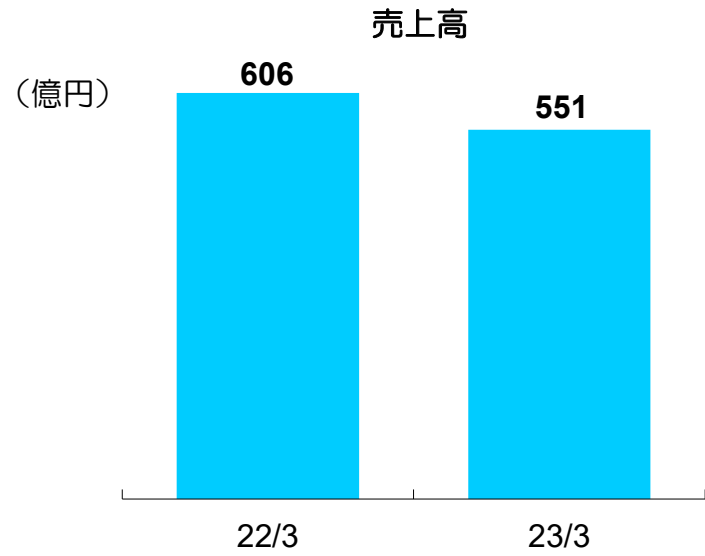


売上高 390億円（前年同期比45.4%増）  
営業利益 28億円（前年同期比一%増）

## ● センサ

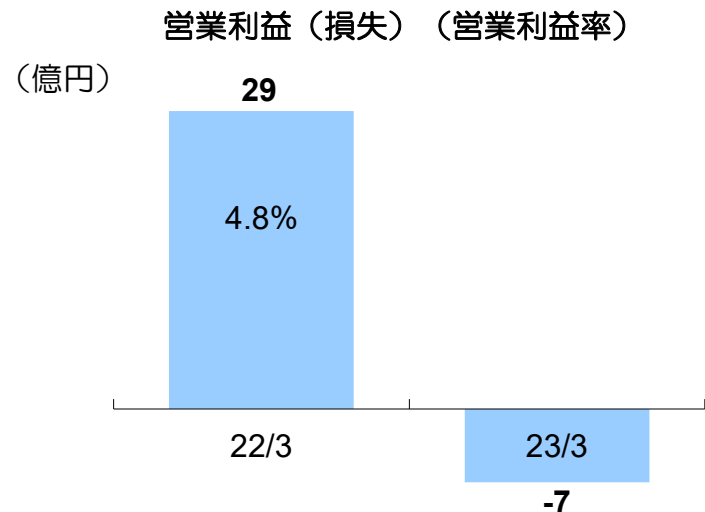
- 前年同期比で大幅な増収、利益は黒字転換。
- 温度・圧力センサは、自動車市場向け販売が増加。
- 磁気センサは、ホールセンサの販売が自動車市場向けに増加、TMRセンサは、ICT市場向けの採用拡大等により販売が大幅に増加し、収益も大きく拡大。
- MEMSセンサは、モーションセンサ及びマイクロフォンが、顧客基盤及びアプリケーションの拡大によりICT市場向けを中心に販売が拡大。収益も大きく改善。

# 第1四半期各事業の状況（磁気応用製品事業）

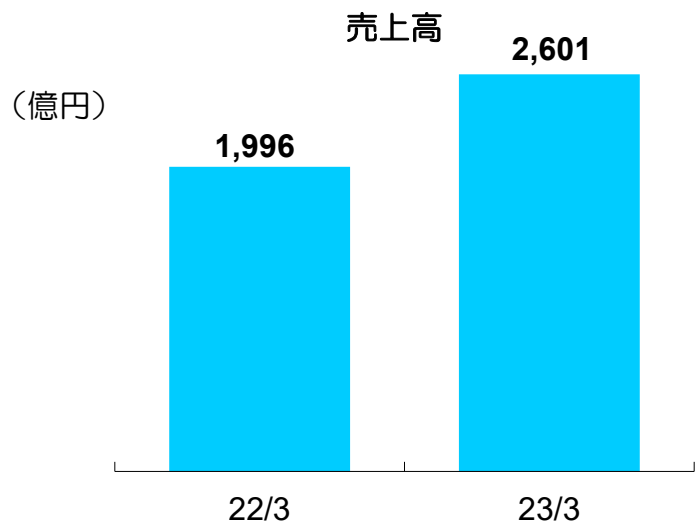


売上高 551億円（前年同期比9.1%減）  
営業損失 △7億円（前年同期比―%減）

- HDDヘッド・HDDサスペンション
  - HDDヘッドは、PC用途等HDDの生産台数低迷により減収減益。
  - HDDサスペンション応用製品は、減収減益。
- マグネット
  - 前年同期比で増収、営業損失が減少。
  - 自動車市場向けの販売が増加。

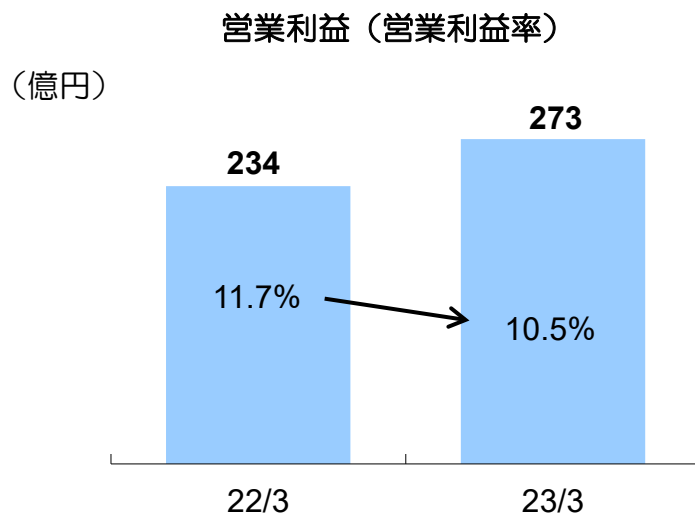


# 第1四半期各事業の状況（エネルギー応用製品事業）



売上高 2,601億円（前年同期比30.3%増）  
営業利益 273億円（前年同期比16.9%増）

- エネルギーデバイス（二次電池）
  - 前年同期比で増収増益。
  - モバイル用途（スマートフォン、タブレット、ノートPC）向けの販売数量は減少も、サーチャージ、為替影響等により増収。
  - 家庭用蓄電システム向け等のパワーセル製品の販売が大幅に拡大。
- 電源
  - 産業機器用電源は、堅調な設備投資需要により、前年同期比で増収増益。



# セグメント別四半期実績

	(億円)	2022年3月期 第1四半期 (A)	2022年3月期 第4四半期 (B)	2023年3月期 第1四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対直前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	471	504	576	105	22.2	72	14.2
	インダクティブデバイス	421	458	493	73	17.2	35	7.7
	その他受動部品	325	318	347	22	6.6	29	9.3
	受動部品	1,218	1,280	1,416	199	16.3	136	10.6
	センサ応用製品	268	351	390	122	45.4	39	11.1
	磁気応用製品	606	584	551	△ 55	△ 9.1	△ 33	△ 5.7
	エネルギー応用製品	1,996	2,741	2,601	605	30.3	△ 140	△ 5.1
	その他	113	126	146	34	30.0	20	16.1
	合計	4,201	5,083	5,105	904	21.5	22	0.4
営業利益	受動部品	181	148	246	65	36.1	98	66.7
	センサ応用製品	△ 32	△ 12	28	60	-	40	-
	磁気応用製品	29	△ 42	△ 7	△ 36	-	35	-
	エネルギー応用製品	234	265	273	40	16.9	8	3.2
	その他	△ 10	△ 1	4	13	-	5	-
	小計	402	357	544	142	35.2	186	52.2
	全社および消去	△ 89	△ 103	△ 98	△ 9	-	5	-
合計	313	255	446	133	42.4	191	75.2	
	営業利益率	7.5%	5.0%	8.7%	+1.2pt	-	+3.7 pt	-
為替	対ドルレート (円)	109.50	116.14	129.36				
	対ユーロレート (円)	131.90	130.35	137.95				



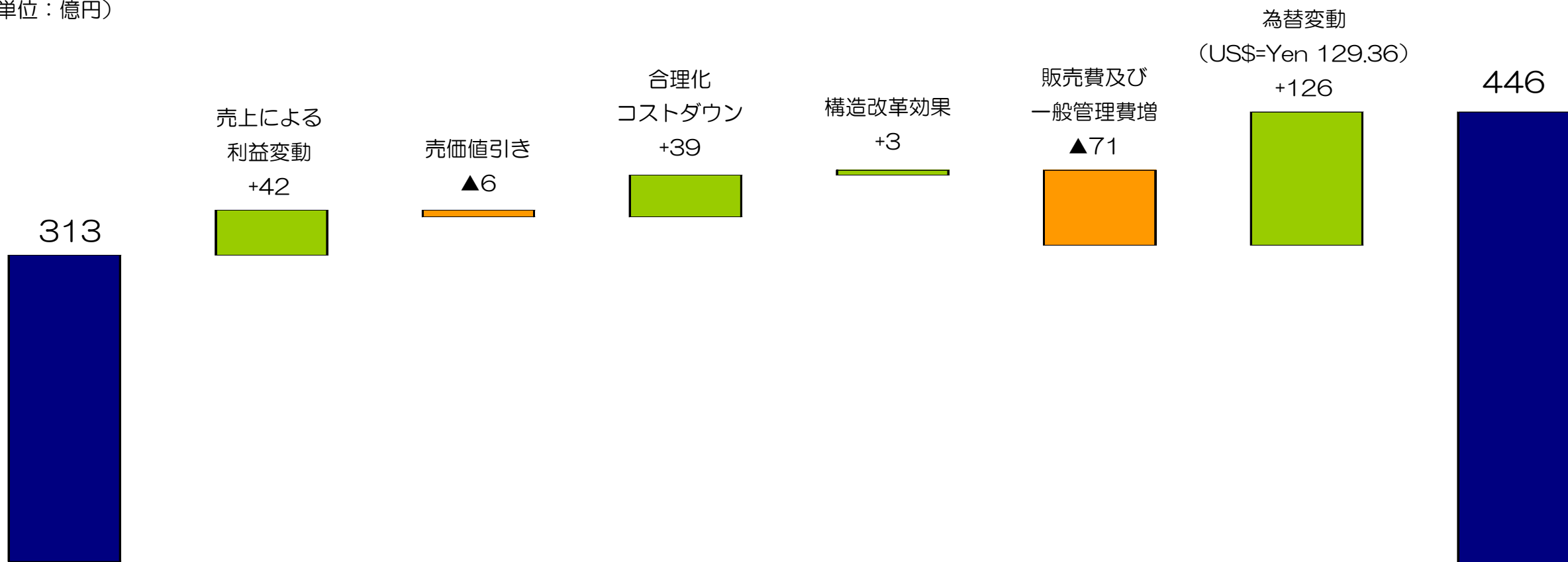
# 営業利益増減分析

2022年3月期  
第1四半期  
313億円

営業利益 +133億円

2023年3月期  
第1四半期  
446億円

(単位：億円)



# 第2四半期の売上高増減イメージ

(億円)

セグメント 区分	2023年3月期 第1四半期実績	2023年3月期 第2四半期予想 (対1Q)
受動部品	1,416	±0～+3%
センサ応用製品	390	+3～+6%
磁気応用製品	551	+12～+15%
エナジー応用製品	2,601	+13～+16%
その他	146	—
<b>合計</b>	<b>5,105</b>	<b>+8～+11%</b>

為替前提

為替レート \$/Yen  
為替レート EURO/Yen

129.36  
137.95

120.00  
130.00

# 2023年3月期 連結業績及び配当金見通し

Attracting Tomorrow



	(億円)	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 業績予想 (2022年5月発表)	業績予想対前期比	
				増減	増減率(%)
売上高		19,021	22,000	2,979	15.7
営業利益		1,668	1,850	182	10.9
営業利益率		8.8%	8.4%	-0.4 pt	-
税引前利益		1,725	1,900	175	10.2
当期利益		1,313	1,450	137	10.4
1株当たり利益(円)		346.44	382.54	-	-
配当金		中間：100円 (33.3円) 期末：45円 年間： - (78.3円) * (株式分割後)	中間：53円 期末：53円 年間：106円	-	-
為替	対ドルレート	112.33	120.00	-	-
	対ユーロレート	130.53	130.00	-	-
固定資産の取得 (設備投資)		2,913	3,000	87	3.0
減価償却費		1,770	2,000	230	13.0
研究開発費		1,653	1,900	248	15.0

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといたします。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。  
[https://www.tdk.com/ja/ir/ir\\_events/conference/2023/1q\\_1.html](https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2023/1q_1.html)